



# IKUBOSS PRESS

昭和ボスから令和ボスへ ～新しい働き方、マネジメント、そして人生～

## イクボスワークショップ in 武蔵境 開催

2023年3月23日、日本獣医生命科学大学および日本医科大学基礎科学の教授24名が参加し「イクボスワークショップ in 武蔵境」を開催しました。川島高之氏（NPO 法人ファザーリング・ジャパン）を講師に迎



え、「部下との接し方」「無駄の削減」「チームビルディング」をテーマに和やかな雰囲気です充実したディスカッションが展開された120分となりました。

武蔵境キャンパスの特徴として部下との関係だけでなく、学生との接し方についても多面的な意見が交換されました。また、各拠点共通する課題の「紙や会議などの無駄」については、すでに研究室のレベルではかなり改善しており、大学や法人などの組織全体での改善が望まれるという発表もありました。

今回は教授限定でしたが、事務管理職や講師・准教授などの若手教員にも機会があるとよいという意見も多く、今後の発展につながることを期待されます。

## イクボス宣言 日本獣医生命科学大学 鈴木学長 / 日本医科大学基礎科学 中村主任

1. 教職員の男女を問わず、ライフイベントに合わせて、仕事とプライベートライフを両立できる様に支援します。
2. 皆が協力して効率的に働ける環境を作るための、業務改善と組織作りに取り組みます。
3. 自らも率先してワークライフバランスの実践に努め、「イクボス」として後進の模範となる様に務めます。

日本獣医生命科学大学  
学長 鈴木 浩悦

1. キャンパスで働く全職員の個性と家庭環境に配慮し、充実した私生活を送りつつ仕事のキャリアアップを目指せるようにサポートします。
2. 働き方改革の精神を尊び、互いの意見を尊重しつつ改善に向けて議論しあえる環境を整備します。
3. ワーク・ライフ・バランスを重視して、業務の偏りや仕事への情熱の燃え尽きがないよう心を配り、自らも豊かで充実した毎日を送ります。

日本医科大学 基礎科学  
主任 中村成夫

ワークショップの最後には日本獣医生命科学大学 学長の鈴木浩悦先生と日本医科大学基礎科学 主任の中村成夫先生が、イクボスを宣言されました。講師の川島氏からは、ワーク・ライフ・バランスや働き方改革を推進する一方で、厳しさをどう担保してくかが、これからのボスの腕の見せどころ、という励ましを頂きました。

イクボス宣言全文はこちらから



後列左から鈴木学長、中村基礎科学主任、川島氏、武蔵境イクボス担当 近江先生、小竹先生、植木先生、高橋先生



## イクボスと敬讓相和 鈴木浩悦 日本獣医生命科学大学 学長

本学では1つの研究室に2~5人の教員が所属し、それが1つのユニットとなって講義や実習を担当しています。また、カリキュラムに卒業論文が組み込まれており、学生は比較的早期から研究室に所属し、他大学より長い時間を研究室で過ごします。この様に、本学は学生と教員の距離感が近く、直接教員から学べるというのが1つの特徴ですが、関係が密になればトラブルも生じやすくなります。さらに、以前より多様な学生が増えてきているため、教員側にはその様な学生に対応するためのスキルや経験が必要となってきています。

研究室において、教員同士の良好な関係を構築し維持することはそう簡単ではなく、現在の立場になってから、様々な相談を受けるようになりました。尊敬に値する上司でありたいと願うものの、それはなかなか難しいことです。また、部下に対してこうなって欲しいという気持ちが強すぎて、空回りすることもあるようです。おそらく、前提として、上司と部下という関係以前にお互いを認め合うことが大事のように思います。そういう意味では、本学の学是「敬讓相和」は簡単に言えば「相手を敬い協調する」ということですので、

大事にしていかなければと思います。年度初めの学内会議の挨拶で、ハラスメントゼロを目指したいと話しましたが、それは教職員が学生に対して見本となる人間関係を構築することが、本学の教育の出発点であろうと考えているからです。

研究者としての私の仕事は、生物学的事象の間に関連性を見出すことですが、社会において、人、動物、仕事、大学、企業などの間に関連性を見出し、新たな関係を築くことが学長としてのこれからの仕事ではないかと感じています。そういう意味で、私自身が「敬讓相和」を実践していくことが、大学を良くすることにつながればと思います。

よく「忙しくて大丈夫ですか？」と心配して声をかけてくださる方がいらっしゃいますが、実は運動と気分転換を兼ねて40代からテニスをしています。また、休みが取れば、3年前に購入したテスラ・モデル3で妻とボボ（パグ）と一緒に出かけるのが楽しみです。自動運転が賢くなり、遠出が苦にならなくなりました。仕事と私生活のバランスをとりながら、イクボス宣言に掲げた、仕事とプライベートライフを両立するための支援と、皆が協力して効率的に働ける環境作りに取り組みたいと思います。

## イクボスへの思い 中村成夫 日本医科大学基礎科学主任



### ●ワーク・ライフ・バランスについて

医療にかかわる職場はワーク・ライフ・バランスを保つのが難しい世界だと、世間一般には思われていることでしょう。昔に比べるとかなりよくなっているようですが、やはりまだまだ向上させる必要があると思います。私が大学院生、助手、助教授として過ごしてきた化学系の研究室も、おそらく医師の世界に近い、いわゆるブラックな世界でした。土日の研究も徹夜の実験も厭わず、研究のためなら家庭を犠牲にしても仕方がないというタイプの人々が研究者として成功することが多く、弟子たちもそのような師匠のライフスタイルを真似るといった伝統がありました。一方で、中には家庭生活も充実している上に研究成果も上げているという人もいて、古いタイプの人からは批判的な目で見られていました（僻み半分だったと思います）。でも、ワーク・ライフ・バランスを取るのには、人として当たり前のことだと思います。今まで多くの人々が内心そう思っていたけれど、口に出せなかったのが、ようやく当たり前のように言える時代が来たような気がします。

### ●1年生が過ごす武蔵境キャンパス

武蔵境キャンパスでは、日本獣医生命科学大学と日本医科大学の2大学の学生が楽しく日々を過ごしていますが、私が基礎科学主任を務める日本医科大学の学生は1年生たちだけです。大学に入ったばかりで夢にあふれた1年生たちの最初に目にする私たち教職員の姿が、日々の仕事に疲れ切った様子だと、きっと幻滅するに違いありません。彼らには生き生きと働く大人の姿を見せたいものです。

### ●基礎科学でのイクボス推進

コロナ禍の3年間で失われたものは多いと思います。そのひとつが何気ない雑談を交わす時間でした。雑談から得られるものは多く、研究に限らずいろいろな問題に対するヒントや解決策が雑談の中に隠されていることがしばしばあります。まずは教職員の雑談の時間を積極的に作ることによって、お互いのことをよく知ることができれば、それが最終的にはイクボス推進につながると思います。相互理解から生まれるよりよい職場環境の構築が、ワーク・ライフ・バランスを保つ近道ではないでしょうか。

